

泰らぎ

Vol.45
2017年
夏号



吉村 恵 新院長



温故会

温故会
直方中村病院
福岡県認知症医療センター
<http://www.onkokai.jp/nakamura/>
編集・発行 直方中村病院広報委員会



- P1 表紙・目次
- P2 研修会のご紹介
 - ・アルコール依存症勉強会
- P2～P3 活動のご紹介
 - ・1・2病棟合同 パークゴルフ大会
 - ・糖尿病教室 & THE男飯
 - ・広報委員会紹介
 - ～スタッフブログが出来るまで～
- P4 吉村恵新院長へインタビュー!

研修会のご紹介



アルコール依存症勉強会

今回の勉強会では講義ではなく、以前TVで放送された番組のビデオを鑑賞しました。

■ アルコール依存症の恐ろしさ

ちょっとしたきっかけでお酒に依存するようになり、次第に飲酒量が増えていきます。依存が強くなると、出勤前にも飲まずにはいられなくなってしまうたり、気を失うまで飲み起きたらまた飲む…という行為を繰り返してしまったりします。

アルコールが切れると離脱症状（めまいや幻聴、手

1 病棟職員主催で
アルコール依存症の勉強会
を行いました。



のふるえ）が出現し、それを回避するためにまた飲む状態が続くことで、うつ状態・幻視・幻聴・記憶障害・肝臓障害などが身体を蝕んでいきます。

飲んでダメだと分かっているのに飲んでしまい、それが仕事や家庭生活にも多大な支障を及ぼすようになり、全てが崩壊してしまう。

そんな恐ろしい”病氣”です。

百聞は一見に如かず…ビデオを見て、どうして依存するのか？その時の心理状態など多くの事を改めて学ぶ事が出来ました。

活動のご紹介



1・2病棟合同 パークゴルフ大会

直方市の植木桜つづみ公園パークゴルフ場にて、1病棟と2病棟合同でスポーツ大会を行いました！

1病棟より5名、2病棟より7名、スタッフ8名に OT の実習生2名が参加！！

6チームに分かれプレーを楽しみました。

今回、参加者のなかには、初めて競技する方々も多くいらっしゃいました。その為ボランティアのアドバイザーの方が、参加者一人一人にルールをやさしく丁寧に教えて下さり、ホールを周るごとに皆さん上達していききました。

また、参加者は一人一人お互いに声を掛け合い、笑い声と声援でとても盛り上がりました。



優勝チームは東条 Ns チーム

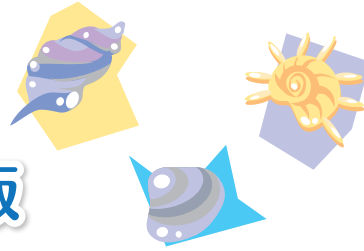
個人の部では各病棟から男性の患者様が1名ずつ、スタッフの部では今年も1病棟の木村師長が優勝しました。

大会後、みんなで食べたお弁当はとても美味しかったようで、また行きたいね、楽しかったとの声が聞かれました。



活動のご紹介

糖尿病教室 & THE男飯



2 病棟食堂にて、酒田 Ns による糖尿病教室がありました。患者様の中から、司会、書記を決め、用紙に書かれた内容をもとに日頃気を付けていることなどを発表していただきました。(o´▽`o)ノ

真剣な顔で用紙を読まれている方、発表を聞き笑っておられる方、普段活動には参加されない方もしっかりと発表を聞かれています。

その様子は、まるで学生時代に戻った頃のように、とても新鮮な気持ちでした+。*(´▽`*)*。+

今回で、第4回の糖尿病教室ですが、勉強したことを少しでも身に付けて頂けるよう、その都度、振り返りをしています。

言葉の穴埋めなどのクイズにもしてみました(*≥U≤)

これからも多くの患者様に糖尿病教室をうけてほしいと思っています。(ノω*)

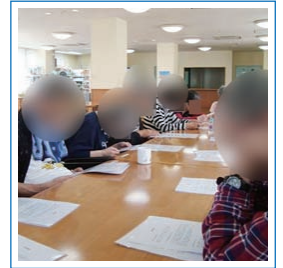
一方、患者様厨房では自立支援に向けて、**THE 男飯**という事で、男性の患者様と一緒にレトルト食品を作る事に!!もちろん買い物も一緒に行ってきました。

買い物では、レトルト食品の売り場に行き、一つずつ患者様に好みの物を選んでいただきました。

10年ぶりにお米をといたという患者様もいましたが、研ぎ方や炊飯器の使い方も少しずつ思い出し上手にされていました!!

レトルトを湯煎しお皿に盛ってみました(^ω^)初めてレトルト食品を食べる患者様もいらっしゃいましたが、自分で作って食べた患者様の中には「美味しい。これなら自分でもできそうだな(*≥U≤)」という感想も聞かれました!!

これを機に、自立支援にむけて患者様がステップアップできるようにスタッフも関わっていきたいと思います!!



広報委員会紹介 ~スタッフブログが出来るまで~



当院のスタッフブログは、広報委員会で作成しています。

広報委員会は、作業療法士・管理栄養士・看護師・介護士・総務と多職種の9名で構成されています。

毎月第1火曜日に集いあい、院内の行事スケジュールなどからブログの担当を決めています。

委員会の構成メンバーは年に一度変わ

るので、ブログの作成の仕方からスタートします。

とくに患者様の顔が写っているものはモザイク加工が必要となり、ちょっと高度な技術も必要になってきます。

今日はスマホを使つてのブログの作成方法を、梅野委員長が講師としてレクチャーをしました。

Android版とiPhone版の作成マニュアルもできています。今後は、さらに充実したブログを配信できるよう、委員会一丸となって頑張っていきます!



吉村恵新院長へインタビュー！

直方中村病院では、この度平成29年5月31日をもちまして、南川喜代晴が退任し、6月1日より新たに吉村恵が院長として就任いたしました。

今回は吉村新院長へ、ご自身の事や地域の中での当院の在り方、そして今後の意気込みなどについてインタビューいたしました。

Q1：早速ですが、吉村院長の事を少し教えていただいてもよろしいでしょうか？

はい。私は久留米大学で心臓外科医を目指して勉強していましたが、大学院生の時、生理学の面白さに目覚め、外科の臨床も経験しながら日本やアメリカの大学で神経生理学の研究をずっと続けていました。



Q2：直方中村病院で働くにいたる経緯を教えてください。

直方中村病院には20年以上前でしょうか。アメリカの大学から戻ってきて、神経科学に関する臨床経験ができる非常勤先を探していた所、精神科の友人に直方中村病院(当時の直方保養院)を勧められた事がきっかけです。



Q3：今回院長を引き受けてくださった理由は？

今おられる常勤医師の中で、直方中村病院での経験年数が一番長いから、病院の事を一番知っていると感じて引き受けました。医師の中で一番年もとっていますね(笑)。

Q4：今後、院長として取り組んでいきたい事を教えてください。

「精神障害のある方を出来るだけ早期に社会復帰して頂く」という動きが盛んな昨今、病院としても何か新しい取り組みを考えなくてはならない。経営的にも今のままでは厳しくなっていきます。まずは、院長として、意見を収集し、自分

の考えをまとめていきたいと考えています。今は、病院もアルコール依存症や認知症と言った病院の特色を強く押し出していく事が必要ではないかと考えています。

Q5：では最後に、直方中村病院に通ってくださっている、患者様やそのご家族様に一言。

精神障害は良くなったり悪くなったりする事があります。その時に、「また直方中村病院に治療受けに来たい。」と思われる病院にしていきたいと思っています。その為に、「受付でしっかり対応してもらった」、「先生によく診てもらった」といった、サービス面でしっかり患者様に对应できる病院を目指して行きます。どうぞよろしくお願いいたします。

